

シリーズ・ひびきのケア
Our Care
2 声かけ

シリーズ第2回のテーマは「コミュニケーション」です。特にスタッフから利用者に対しての「声かけ」は、良好な関係を構築し、いいケアにつなげていくうえで大切なカギを握っているともいえます。言葉によるもの、表情や身振り手振りによるものなど、コミュニケーションには様々なスタイルがありますが、ここでは、私たちが日ごろ心がけている「声かけ」について紹介します。

たかが「声かけ」、されど「声かけ」。心と身体を動かす「声かけ」とは。

●介助の出発点

「立ってください」「座りましょう」…。普段、何げなく使っている言葉です。介護現場では、認知症の方をはじめ、足腰が思うように動かなくなった方や、脳卒中などの後遺症により車イスを利用されている方もいます。こうした方々の中には、立ち上がりや歩行などに時間がかかる方もいます。介護現場でよく見受けられるのが、待ちきれずに「立ってください」「立って」と大きな声を出したり、思わずズボンを持って引き上げてしまうこと。スタッフは一所懸命なのですが、介護される方は、「なんで立つの」と思っているかもしれません。

●生活行為の目的を持ってもらう

「立ったり」「座ったり」「歩いたり」する動作は、その動作自体が目的ではないはず。 「立ちあがった」先には「トイレに行く」「家に帰る」といった目的がちゃんとあります。「トイレに行く」「物を取る」「テーブルで食事をする」「寝室に行く」というように、生活を送る上での目的があってはじめて、身体が動くのです。こうした生活上の目的をご利用者様にしっかりと持ってもらう、あるいは選択してもらうことが、次の動作につながるのです。

●「選択」と「意欲」を引き出す

介助される側の心の準備がまだできていないうちに、「立つ」「座る」といった介助をすると、「立たせる」「座らせる」「動かす」というように、力に頼る介助となり、また介助される方の「自分で立つ」「自分で座る」といった「主体性」が見えない介助になってしまいます。

その意味からも、「食事の時間ですが、テーブルに座りませんか?」「お風呂の時間ですが、今から入りませんか?」といったスタッフの声かけが、ご利用者様の「選択」と「意欲」を引き出す重要なポイントとなります。まずは、「お風呂に入りたい」「水を飲みたい」「ゲームに参加したい」というように、生活行為そのものに「意欲」を持っていたり、かかわることが、何よりも大切だと考えています。

「トイレに行こう」と思ったら、立ち上がって、トイレまで歩こうとするのは自然なこと。「声かけ」は、そうしたご利用者様自身の動きを引き出す、あるいはきっかけとなる介助の出発点。スタッフたちは、心を動かし身体も動かす「声かけ」をこれからも磨きたいと現場で奮闘中です。



お

お知らせ

- 在宅サポートセンター生田では、看護師(准看)資格をお持ちで、看護業務をサポートしていただける方を探しています。詳しくは下記までお問い合わせください。
- グループホーム響では、見学をご希望の方、ご入居をご検討の方、随時受け付けております。お気軽にご相談ください。 電話044-955-1711

在宅サポートセンター生田 デイサービス響 空き情報
(平成23年5月末現在)

	月	火	水	木	金	土	日
6時間以上8時間未満 定員26人	○	○	◎	◎	◎	○	休
4時間以上6時間未満 定員4人				○		休	休
入浴	△	△	○	△	△	△	

◎=十分に空きがあります。○=空きがあります。△残りわずかです。空き情報につきましては、△の場合でもご相談ください。

●6月のカレンダー

- 6月01日 ひびき通信6月号発行
- 6月12日 在宅サポートセンター生田家族の会
- 6月15日 グループホーム響ケースカンファレンス
- 6月19日 こだわりの入浴セミナー
- 6月23日 デイサービス響ケースカンファレンス